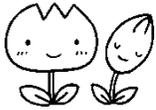


えんちょう先生の わくわくだより

NO.2 H29.4.24



ミッキーケ
ーキだよ



年少さん、先生の体操をじーと見ています



みんなで一緒にお
いしい給食だよ

いちご、ひよこ組



年長さんのボールつき遊びや、どっち
ボールも始まったね

みんな
元気いっぱい!



うさぎ組さん、紙芝居に真剣

火事や地震の時は、
泣かないように早く
逃げるんだよ



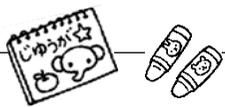
砂場でのごっこ遊びは楽しいね



年中さんのお花見



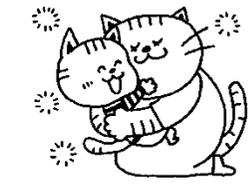
生活の中から・・・



えんちょう先生のつぶやき・・・



今、子ども達の生活を見ていると、その関係作りがとても難しくなっている事を感じます。遊んでいるうちに、ちょっと肩がぶつただけなのに、「○○ちゃんがおした」。砂場で、今仲良く遊んでいたはずなのに「△△ちゃんが、水をかけた！」どっちボール中、球がそれで、頭にあってしまう事も「◎◎君が、私にめがけてぶつけた！」・・・発達途中の、集団の中にいる乳幼児にとっては、当たり前になる遊びの中の出来事です。「これは、ぶつかったとは言わないんだよ。触っただけ」「これは、水をわざと掛けたんじゃない 高いところから水を流して掛かっちゃったんだね。今度は、下の方から流そうか」「ボールは腰から下に投げれるといいね 今はまだ練習中だから許してあげてや」・・・と先生たちは、今起こった事がどう事なのかを言葉で丁寧に教え続けます。昔の子どもなら「ごめん!」「いいよ」で終わりそうな事に、とても手間取ります。遊びの中にも、理由と訳をこんなにも教えなくてはならない時代になったのか?と長く幼児教育に携わってきた私には不思議にさえ思えます。未発達の子どもが大勢集まる集団。言葉で上手く伝わらない事や、気持ちをわかり合う事も練習中の子ども達、やる事に、個人差の大きさも当然ある。未分化な子ども達だけに失敗や、間違える事だっていっぱいある。そうやって、子どもは育つものなのだと、私達大人も確認しておきたいものです。子どもの失敗は育ちの栄養剤となるはずですから。



よる「おやすみなさん」をうたうと

おかあさんは
くびかざり
まだかけていた

「ありがとう」といって
くびかざりをかぶった

おかあさんは
しばらく下をむいて
作ってあげた

ぼくは ははの日
白め草という
クローバーの花を とって
おうちで くびかざりを

おかあさん

ポエム

